

第14回 海外を含むJ-クレジットの動向

今回は、海外の状況を織り交せて、J-クレジットの動向について紹介いたします。

2015年7月に電気事業者のうち、国内有志23社による地球温暖化対策として、2030年度に二酸化炭素排出係数0.37kg/kWhを目標とすることが発表されました。電力自由化のもと、自主的枠組みの目標達成に向け、大手電力会社10社はもちろん、主要な新電力が取組に参加しています。自社のCO₂削減努力ではどうしても達成できない場合、電気事業者は一般の事業者よりもCO₂を多く排出していることから、京都議定書に基づく海外産の京都クレジットを大量に購入し、CO₂排出係数の調整に利用していました。

しかし、2015年11月以降、日本の京都議定書上の約束期間が終了したことから、海外のクレジットが利用できなくなりました。現在、利用可能なJ-クレジットのうち、特に排出削減系の場合、一つひとつのプロジェクトの削減量は30t-CO₂/年からであり、全量でも京都クレジットと比較すると小規模です。排出係数等の調整において電気事業者や大企業は、数万から数10万トンのCO₂クレジットを必要としているため、クレジットの量が不足しています。

こうしたなか、2016年5月より発行が開始された、新しい海外のCO₂クレジットであるJCM(二国間クレジット制度)クレジットの活用が期待されています。現時点では発行クレジットは少量で、一般の企業が購入可能な状況ではありませんが、アセアン諸国を始めとする海外の省エネプロジェクトが多数創出されているなかで、2016年5月にクレジット発行されたプロジェクトが出てきております。今後は、JCMクレジットが京都クレジットの代わりとなっていく可能性が見込まれます。また、2016年11月に炭素市場プラットフォームに関するCOP22サイドイベントが開催されました。世界経済全体に炭素市場ベースの手法や規制手法などを含む効果的な政策と行動について議論されています。

一方、CO₂クレジットの利用には、大規模な排出係数の調整ばかりではなく、地域貢献による環境活動のPRなども考えられます。

例えば、企業の生産工場に必要な電力やガスの利用に伴って排出されるCO₂に対して、J-クレジットを購入し排出量を相殺することで、自己活動の環境貢献をPRすることができます。また、事業者自らオフセット付の商品として自社商品売り出し、環境価値を高めるブランディングに利用することもできます。自治体等イベント主催者はイベントの開催等によって、どうしても減らすことのできないCO₂排出量を、地域で生み出されたJ-クレジットで埋め合わせ、地産地消的なイベントとして参加者にPRすることもできます。

価格は一概にはいえませんが、1トンあたりの価格を京都クレジットと比較すると国内クレジットは高価なものになっています。反面、国内のクレジットは小口でも取引可能という利点があります。中部産CO₂クレジットの場合、CO₂の取引において最少取引単位となる1トンから、1,000円/トン(税抜)で購入することができます。

中部経済産業局では中部産 CO₂ クレジットプラットフォームを創設して、J-クレジットの創出・活用に関する様々な支援を実施しております。気軽にご相談ください

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform.html>

(ソフト支援事業実施機関)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 名古屋
担当:松田、長尾、林田、有馬、大坪、小森
〒461-8516 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
電話 052-307-1102

中部Jクレ コラム バックナンバー

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>

- [第1回]地球のために1トン数千円から
- [第2回]削減したCO₂を売るには? ~J-クレジット制度活用のポイントあれこれ~
- [第3回]クレジット購入企業の社長に聞く ~株式会社アユセン~
- [第4回]教えて! CO₂クレジットの売買
- [第5回]北陸の温泉旅館におけるヒートポンプ導入によるCO₂削減事例
~株式会社ふくみつ華山温泉~
- [第6回]カーボン・オフセットを活用した商品開発
- [第7回]平成28年度 J-クレジットの動向
- [第8回]省エネにつながる設備投資をしたのですが、J-クレジット化できますか?
- [第9回]J-クレジット制度×学生のコラボレーション



[第 10 回]J-クレジット制度説明会でのQ & Aのご紹介

[第 11 回]カーボン・オフセットを活用して地球温暖化対策の意識啓発を
～自治体の取り組み～

[第 12 回]J-クレジット活用事例－愛知県主催「Let's エコアクション in AICHI」－

[第 13 回]J-クレジット活用事例－(社)愛知県トラック協会「みんなで学ぼう!トラ
ックと交通安全・環境フェア」－
